

# 新事業展開型 株式会社佐々木農園

積極的な商品開発で、伝統を守りながらも革新を続ける

近畿支部 販路開拓プロジェクトマネージャー 高島 和夫

## 【ポイント】～地元特産品の新たな用途探索と他社との協働による積極的な新商品開発～

梅の生産量日本一の和歌山県が誇る南高梅（なんこううめ）。南高梅を使用した梅干は最高級品と言われているが、「南高梅のすばらしさをさらに多くの人に知って頂きたい。」との社長の思いから、梅干の他にも新たな用途探索を行い積極的な新商品開発を行いながら、南高梅を使用したヒット商品の開発を目指す。しかしながら、新商品開発及びその販路開拓に割くことができる経営資源は限られる。この課題解決のために販路開拓コーディネイト事業、窓口相談を活用して、限られた経営資源に対して効率的な補完を行いながら、他社との協働による新商品開発に積極的に取り組み、新たな活路を開いた事例である。

## 企業概要

- ▶ 企業名：株式会社佐々木農園
- ▶ 業種：梅の栽培及び梅の加工品の企画製造販売
- ▶ 本社所在地：和歌山県日高郡みなべ町東本庄192-3
- ▶ 資本金：3百万円
- ▶ 設立：平成21年2月(創業大正10年)
- ▶ 売上高：103百万円
- ▶ 従業員数：9名



代表取締役 佐々木敏明社長

佐々木社長は大正10年から続いている和歌山県特産の南高梅栽培兼梅干製造販売を営む3代目で、南高梅を使用して梅干以外の加工食品の開発を目指し、たゆまぬ商品開発を続けていた。特に注力したのが、梅本来の甘みを生かす完熟梅を使用した梅スイーツの開発であった。新たな梅スイーツの商品開発で経営革新計画の承認を受け、自社開発第一号商品として、塩を使わない独自製法によって梅本来が持っているポリフェノール、β-カロチン、ビタミンEを残した梅スイーツ「梅未来」を開発した。しかしながら、従来から加工販売していた梅干とは販路が異なるため、デザートである梅スイーツ「梅未来」の新たな販路開拓に苦戦していた。

そこで当機構近畿支部の窓口相談の存在を知り、梅スイーツ「梅未来」の販路開拓及びマーケティングの相談のため窓口相談を活用し、定期的に通いアドバイスを受けながら「梅未来」の販路開拓を地道に行っていた。また、「梅未来」の販路開拓と平行し、更なる新商品の開発にも積極的に取り組んでいった。次の取り組みとして「梅未来」をペースト状にした「梅未来ペースト」を開発し、「梅未来ペースト」を使用した商品開発を行っていた。「梅未来ペースト」を使用した商品開発について窓口相談に来た際、販路CADを兼務しているアドバイザーから「自社での新たな商品開発には更なる経営資源の投下が必要であり、リスク軽減のためにも梅未来ペーストを商品開発力に長けた大手企業に原材料として販売してみてはどうか。ユニークで商品性の高い原材料なので商機があると思う。」という提案を受けた。また、販路開拓コーディネイト事業の紹介を受け、当事業を活用した「梅未来ペースト」のテストマーケティングを行うこととなった。

## 支援課題の設定とプロジェクトマネージャーの視点



高島和夫 販路開拓プロジェクトマネージャー

支援課題としては、「梅未来ペースト」の1) 市場における商品性評価の獲得、2) 注力すべき用途の発見、3) 販路先の獲得、の3つを設定した。ターゲット企業の選定に関しては、「梅未来」の今後のブランディングを考慮して「梅未来ペースト」を使用した高価格帯のデザート等を製造販売する可能性がある、1) 有名デザートメーカー、2) 高級ホテル、3) 高級スーパー（PB商品向け）などをターゲットとした。商談の基本戦略としては、まず担当者にペーストを使用したシャーベットと梅未来ペーストを試食してもらいシャーベットなどの原料としての提案を行い、提案に対する担当者の反応が悪ければ、担当者のニーズヒアリングを行い、ニーズがある商品の開発をターゲット企業と協働して行えるように商談を進めることとした。

## 支援内容と支援成果

活動は円滑に推移していった。理由としては、1) 「梅未来ペースト」の高い商品性、もさることながら、2) 社長の誠実な営業姿勢とターゲット企業からの要望に対して迅速且つ柔軟に対応した高い対応力、3) 社長と販路コーディネーターとのチームワーク、が挙げられる。具体的な支援成果は次の通りである。

### ① 大手高級ホテルからの受注

当該ホテルはホテル内に10のレストランを保有しており、デザートのみならずドレスリング等の原料として高い評価を得て、受注に至った。

### ② 高級スーパーからの受注

PB商品の和菓子の原料として高い評価を得ることができ、受注に至った。

### ③ 老舗和菓子メーカーからの受注

新製品の和菓子の原料として、受注に至った。

### ④ 大手デザートメーカーからの受注

「梅未来ペースト」の原材料である「梅未来」がパフェの材料として採用され受注に至った。

その他、大手外資系アイスクリームメーカーをはじめ他ターゲット企業も商談継続中である。今回の活動において先述した支援課題は達成され、また、受注先の中には、「佐々木農園の梅未来」ということを前面に出して商品展開を行ったターゲット企業も複数あり、大変有意義な活動に終わった。今後も自社での商品開発のみならず大手企業と協働で商品開発を行い、「梅未来」のブランディングを継続的に行っていくことによって更なる事業の飛躍が期待される。



## 経営者のことば

この「梅未来ペースト」は新しい梅製品でしたが、販路開拓コーディネーター事業のおかげで、今までにない販路開拓ができ予想以上の成果を上げることができました。これからもずっと梅を大事にし、古き伝統を大事にして、お客様が笑顔で喜んで頂けるものづくりを心がけて続けて参りたいと思います。